

## 出ていかな 焼くぞ

3年ぶりに開催された伝統行事7月24日(日)、北勢町北中津原と南中津原が合同で、稲に付く害虫を追い払う「いもち送り」を行い、多くの住民が参加しました。一般的に「虫送り」と呼ばれるこの行事は、同地区では、戦前まで行われており、2011年から再開されました。中原神社で宮司による祈とうを受けたあと、事前に自治会長と有志が作成したたいまつに火をつけて、それぞれの地区の農道を練り歩きました。参加した子どもたちは「熱かったけど、楽しかったです」「たいまつが大きくて大変だったけど、最後までやれてよかった」と話し、夏の思い出になったようでした。



1. 少しずつ日が暮れるなか列になって進む 2. 竹の先に麦わらがくりつけられたたいまつに火をつける 3. 南中津原の伊藤稔さんは「地区に伝わる伝統行事を子どもたちに体験してもらいたい」と話していました

晴天の中、大西神社を出発し町内へ進む「神台みこし」



## 3年ぶりの八幡祭

市の指定無形民俗文化財の祭り7月23日(土)、北勢町阿下喜で八幡祭が行われました。新型コロナウイルスの影響で昨年と一昨年は中止となっており、3年ぶりの開催でした。今年は、感染拡大防止のため、「あばれみこし」と呼ばれる大人みこしや子どもみこしの練り歩きは取りやめ、神台みこしで町内を練り歩きました。見物に訪れた人たちからは、「久しぶりに見れてよかった」「夏が来たって感じがする」などの声が上がっていました。

「それ行け」という意味の「チェスト」の掛け声とともに宝林寺を出発



## 関ヶ原戦跡踏破隊

先人の生き方を学ぶ行事が3年ぶりに開催8月5日(金)、鹿児島県日置市の小中学生8人が「第63回関ヶ原戦跡踏破隊」として、北勢町東貝野から藤原町鼎までを歩きました。これは、関ヶ原の戦いで敗れた島津隊が鹿児島まで帰ったルートを現代の子がたどり、先人の生き方や歴史を学ぶ取り組みです。東貝野の宝林寺には、地元の人たちで結成された「お迎え隊」や見物人など約30人が集まり、声援の代わりに旗を振って一行を応援していました。

インターハイ個人の優勝、団体3位のメダルを持って。そして世界へ



## U20世界選手権で準優勝

男子レスリング74kg級で出場しました

8月8日(月)、ブルガリアで行われるU20世界選手権に出場を決めた神谷龍之介選手と監督が、市長に出場報告をしました。在校中に世界選手権に出場するのは、いなべ総合学園高等学校の男子としては初の快挙です。出発前、神谷選手は「世界で自分の力を試したい。高校の先輩は世界で活躍している。自分も同じように活躍したい」と話し、その言葉どおり世界の舞台でも活躍し、準優勝を果たしました。

現在は、10月に行われる高校最後の大会に向け、練習に励んでいます



## インターハイで3位の快挙

女子レスリング50kg級に出場しました

8月2日(火)、3日(水)に高知県で開催されたインターハイに出場したいなべ総合学園高等学校3年生の弓矢紗希選手が3位に入賞しました。高校生活最後のインターハイなので、「必ず表彰台に立ちたい」という気持ちで臨んだそうです。今後の目標について、弓矢選手は、「大学に進学してもレスリングを続けたい。全国大会に出場して、優勝できるように頑張りたい」と話していました。

左から、島尻啓成選手、葛山実結選手、クラブ出身の森川寛菜選手



## 陸上競技で全国、東海へ

日々の練習が実を結び、大舞台へ

8月1日(月)、全国、東海大会に出場を決めた北勢ランニングクラブの島尻選手、葛山選手、クラブ出身の森川選手が、市長に出場報告をしました。それぞれ県大会で上位に入賞し、全国、東海大会への出場を決めました。小学生男子100メートルで出場する島尻選手は、「全国大会には自分より速い選手がたくさんいると思うので、どうしたら勝てるかをイメージしながら挑みたい」と話していました。

大会に向け、部員一同、一生懸命練習に取り組んでいました



## 大安中学校柔道部を激励

男女ともに団体戦で東海大会に出場しました

8月2日(火)、全国および東海大会に出場を決めた大安中学校柔道部を、市長が激励のために訪問しました。キャプテンの服部笑福選手は、「県大会では力を出し切ることができなかった。悔しい思いをぶつけて頑張りたい」と東海大会へ意気込んでいました。8月6日(土)、7日(日)に静岡県で開催された東海大会では、強豪校が集う中、男女ともに3位という好成績を取めました。